

「ビジネス基礎」評価規準・評価方法について

～指導と評価の一体化～

佐賀県立杵島商業高等学校教諭 池田 久雄

I. はじめに

本校は平成14年度教育課程における「評価規準・評価方法の工夫改善」の研究指定を受け、「ビジネス基礎」評価規準・評価方法の工夫改善について研究を行ってきた。

前年度までの研究で、この科目について参考となる評価規準がすでに示されていたので、この参考事例をもとに、本校の教育方針、生徒の実態に基づいて少しずつ変更を加えるかたちで評価規準を作成していった。

この研究を通して得た成果や指導のあり方、課題を述べていきたい。特に、「指導と評価の一体化」について、研究実践を通じて確認できたことが収穫であった。

II. 「ビジネス基礎」観点別評価と授業実践

1 「ビジネス基礎」における評価規準の研究実践

(1) 観点別評価表の活用と評価方法

実際の評価については、まず、文部科学省が示す評価規準（参考事例）をもとに、本校独自の観点別評価表（実際にA、B、Cの3段階で評価）を作成して授業の進行とともに実際の評価を行った。

この評価表の作成に当たって二つのポイントがあった。

ひとつは、評価するまとまり（ユニット）をどの範囲にするかということであった。学習指導要領が示す単元や節で区切っていくのか、それより大きくまたは小さく区切るのかを決めることが、最初に必要であった。限られた単位数のなかでは、本校の指導計画のなかで重点をおく単元や節、項目もあるからである。

二つめに、具体的な評価規準を評価表のなかに三つの段階別に簡潔に記述し、この規準に合わせて、生徒の行動、提出物等を評価していくわけである。

この規準はほとんど参考事例と同じ文章表現にした。指定校としての検証実践としては、その方が望ましいと思ったからである（もちろん全部ではなく、2～3ユニットは本校独自の表現もある）。本校の場合、どうしても流通ビジネス分野である第2章「経済生活とビジネス」、第3章「ビジネスと流通活動」、第4章「ビジネスと売買取引」に多く時間を割いたので、評価のユニットはこの分野を小さく区切ることにした。第5章の「外国人とのコミュニケーション」については、14年度は準備不足で、時間も多くとれなかったもので、十分な評価ができなかったが、ALTとの会話等で、「技能・表現」を見るには貴重な授業内容であった。

評価方法については、授業中の行動観察、ノート提出、学習ノート、グループ学習発表、ロールプレイング（英会話）が主なもので、これらのものを4観点に分けて記録（評価）していった。その具体的な内容を紹介する。

行動観察については、通常の授業では、1時間のなかで、学習内容を説明しながら生徒全員を観察するのは無理であり、毎時間、顕著な授業態度を示した少数の生徒を記録しておくしかない。したがって、より多くの生徒の観察を行うには、調べ学習やグループ学習のように生徒が何か自主的に作業を行っている場面で見ると（評価する）ことが可能である。

学習ノートについては、関心・意欲・態度や技能・表現を評価することができる良い材料となる。普通のノートと違って、評価のユニットごとにミニレポートとしてまとめさせるようにする。知識・理解だけでなく、調べ学習として、身近な例の調査記入や新聞記事やインターネットHP記事を貼付させ、記事に対する意見・感想を書かせることで、関心・意欲とともに思考・判断、表現力を見ることが出来る。

グループ学習および発表については、グループの

テーマ決めや情報収集、発表準備などで通常の授業より時間がかかる（プラス2～3時間）ので、学期に何回もできないが、まさに技能・表現の場面を演出するにはうってつけである。しかも、準備から発表までの過程で、通常の座学では見ることができない生徒の一面を発見することができて、より現実的で正確な評価ができる。

ロールプレーイング等では、第5章の「外国人とのコミュニケーション」の場合に、ALTを参加させ、ロールプレーイング、簡単な日常会話など、できるだけALTの活動が多い授業内容を展開すれば、関心・意欲・態度や技能・表現等の評価がやりやすい。

以上、各評価方法により観点別評価表にA、B、C段階で記入していくが、記入のインターバルとしては、各ユニットごとに評価するので、おおそ週に1回の割合で記入していく作業となった。評価の効率をよくするために、具体的な評価方法と4観点の対応（組み合わせ）をある程度決めておくことである。

(2) 学期または年間の評価について

学期ごと、年間の評価については、最終的に100点法もしくは、5段階による評価として数値化されるが、毎回の観点別評価はA、B、Cで評価して、学期ごと、年度末にA、B、Cの集計結果を数値化する場合と、毎回の観点別評価の段階から数値化する方法が考えられる。今回の検証としては、後者の方法を用いた。その理由は、前者の方法では文字データ（A・B・C）からの数値データへの変換が困難に思えたからである。当然変換のための計算方法も必要になってくるからである。15年度は両方で検証することも考えている。要は、評価規準を概ね満足する「B」と「A」、「C」の区別を正確に行うことである。

また、ペーパーテストの取り扱いであるが、今回は単純に、学期、年間ともに、ペーパーテスト6割、その他の観点別評価を4割として評価を行った。この場合、結果として全体に「知識・理解」の観点が多くを占めることになる。もちろん、ペーパーテストの作問構成で、4観点すべてもしくは一部を見る方法もある。全体として、4観点の評価が行われればよいわけである。

2 評価および授業実践を通しての感想・課題

(1) 感想

少なくとも、13年度まではほとんど一方的に教師主導型の知識・理解中心の授業を展開してきた私にとって、今回の観点別評価の実践では、大変貴重な経験をもつことができた。評価方法の工夫から、調べ学習を中心とする作業や生徒自ら行動する展開により、生き生きとした学習態度や生徒個々の様々な一面・能力を垣間見ることができ、今までにはない授業の楽しさ・充実感を生徒に与えてもらった。

(2) 課題

評価の方法、実際の評価規準において、他の教師と共通性がなかなか保ちにくかった。今後、校内や学校間での研修を重ねることにより、より客観性のある使いやすい評価規準・評価方法が作成、改訂され、適切な活用とともに、生徒個々に応じた指導の改善を行っていきたい。

(3) 最後に

授業の基本は、生徒が学習の主体であって、あくまでも教師は生徒一人ひとりが学習目標を実現するため、学習内容を習得するためのサポーターであるということである。そして、授業の内容に常に工夫・改善が行われることが指導目的達成に必要である。そのための評価であることを確認したい。

3 資料について

資料1 (p.14) ユニットごとに、観点別評価を行うための表一部である。学習の単位（ユニット）によっては、4観点の割合を変えて評価する。例えば、「外国人とのコミュニケーション」は関心・意欲・態度と技能・表現を中心にみる。

資料2 (p.15) 年度末に成績をペーパーテストと他の観点別評価と総括するための集計表である。

評価標準		関心・意欲・態度				思考・判断				技能・表現				知識・理解				
		ビジネスの担当者特にサービス業者のビジネスに関心をもち自分から進んでまとめたり、確認し、さらに深く学習しようとする。(A)				ビジネスの担当者特にサービス業者について、様々な角度から主體的かつ客観的に考察し、適切に判断しようとする。(A)				ビジネスの担当者特にサービス業者に関する様々な資料を適切に選択して活用し、その過程および結果を適切、効果的に表現できる。(A)				ビジネスの担当者特にサービス業者について、基礎的・基本的な知識を深く理解し、説明できる。(A)				
		ビジネスの担当者特にサービス業者のビジネスに関心をもち自分から進んでまとめたり、確認したりしようとしている。(B)				ビジネスの担当者特にサービス業者について、様々な角度から主體的かつ客観的に考察しようとする。(B)				ビジネスの担当者特にサービス業者に関する様々な資料を適切に選択して活用し、その過程および結果を適切に表現できる。(B)				ビジネスの担当者特にサービス業者について、基礎的・基本的な知識の理解を乏しく、うまく説明できない。(C)				
号	評価対象	資 料				資 料				発表技能				発表内容				
		教師	生徒相互評価	学習ノート	計	教師	生徒相互評価	学習ノート	計	教師	生徒相互評価	学習ノート	計	質問への応答	生徒相互評価	学習ノート	計	
		氏名				氏名				氏名				氏名				
グループ		A : 2 B : 1 C : 0	適切に評価しているか 2 ~ 0 A : 2 B : 1 C : 0	〔日常生活での発見したビジネス〕 学習した内容について日常から関心をもっているか 〔英語表現〕 〔自己評価〕 適切に自己評価を行っているか (2) 4 ~ 0 A : 4 ~ 3 B : 2 C : 1 ~ 0	8	A : 2 B : 1 C : 0	適切に評価しているか 2 ~ 0 A : 2 B : 1 C : 0	〔感想・反省〕 学習した内容について様々な角度から考え、課題を持とうとしているか ・関連記事の切り抜きの感想・意見 自主的な意見ををはっきり述べているか (2) 4 ~ 0 A : 4 ~ 3 B : 2 C : 1 ~ 0	8	A : 5.4 B : 3.2 C : 1.0	適切に評価しているか 「指導案」が示す評価基準による 3 ~ 0 A : 3 B : 2 C : 1 ~ 0	・関連記事切り抜きやインターネットホームページ 「感想・意見」記事の内容を的確に表現しているか (1) 7 ~ 0 A : 7 ~ 6 B : 5 ~ 4 C : 3 ~ 0	15	A : 2 B : 1 C : 0	適切に評価しているか 2 ~ 0 A : 2 B : 1 C : 0	〔学習の要点〕 記述がサービス業者のビジネスについてどれだけ理解しているか (1) 5 ~ 0 A : 5 ~ 4 B : 3 ~ 2 C : 1 ~ 0	9	
1	AA	J	2	1.6	3	7	2	1.2	2	5	3	1.8	6	11		1.2	3	4
2	BB	A	1	1.6	3	6	2	1.2	3	6	3	1.8	7	12		1.2	3	4
3	CC	A	1	1.6	3	6	2	1.2	2	5	3	1.8	6	11		1.2	4	5
4	DD	B	1	1.6	3	6	2	1.2	3	6	3	2.4	7	12		1.6	3	5
5	EE	B	1	1.6	3	6	2	1.2	3	6	3	2.4	7	12		1.6	4	6
6	FF	K	1	1.6	3	6	2	1.6	2	6	3	2.4	0	5		1.2	4	5
7	GG	B	1	1.6	2	5	2	1.2	3	6	3	2.4	6	11		1.6	4	6
8	HH	K	1	1.6	3	6	2	1.6	3	7	4	2.4	6	12		1.2	3	4
9	II	A	1	1.6	2	5	2	1.2	3	6	3	1.8	6	11		1.2	3	4
10	JJ	J	2	1.6	2	6	2	1.2	2	5	5	1.8	5	12		1.2	2	3
11	KK	B	1	1.6	2	5	2	1.2	3	6	3	2.4	6	11		1.6	4	6
12	LL	J	2	1.6	2	6	2	1.2	2	5	3	1.8	6	11		1.2	3	4
13	MM	K	1	1.6	4	7	2	1.6	4	8	3	2.4	7	12		1.2	3	4
14	NN	K	1	1.6	4	7	2	1.6	4	8	4	2.4	7	13		1.2	4	5
15	OO	C	3	1.6	3	8	3	1.2	3	7	5	3	4	12		1.2	5	6
16	PP	C	2	1.6	4	8	3	1.2	2	6	5	2.4	3	10		1.2	2	3
17	QQ	C	3	1.6	4	9	3	1.2	4	8	5	3	7	15		1.2	4	5
18	RR	F	2	1.6	2	6	2	1.6	3	7	5	1.8	7	14		1.2	4	5
19	SS	D	3	1.6	4	9	3	1.6	3	8	5	1.8	6	13		1.2	5	6
20	TT	G	2	1.6	3	7	2	1.6	3	7	4	2.4	7	13		1.6	5	7
21	UU	D	3	1.6	4	9	3	1.6	3	8	5	1.8	6	13	1	1.2	5	7
22	VV	I	2	1.6	2	6	2	1.6	4	8	5	3	7	15		1.6	4	6
23	WW	E	2	1.6	4	8	2	1.2	4	7	3	1.8	5	10		1.2	4	5
24	XX	I	2	1.6	3	7	2	1.6	4	8	5	2.4	5	12		1.6	3	5
25	YY	F	2	1.6	0	4	2	1.6	0	4	5	2.4	0	7		1.2		1
26	ZZ	F	2	1.6	3	7	2	1.6	4	8	5	1.8	7	14		1.2	3	4
27	AB	D	3	1.6	2	7	3	1.6	3	8	5	1.8	5	12		1.2	5	6
28	CD	G	2	1.6	2	6	2	1.6	3	7	4	2.4	5	11		1.6	5	7
29	EF	H	2	1.6	2	6	2	1.6	4	8	5	3	7	15		1.6	4	6
30	GH	F	2	1.6	4	8	2	1.6	4	8	5	1.8	7	14	1	1.2	5	7
31	IJ	E	2	1.6	3	7	2	1.2	4	7	3	1.8	6	11		1.2	4	5
32	KL	H	2	1.6	3	7	3	1.6	2	7	5	2.4	0	7		1.6	3	5
33	MN	I	2	1.6	2	6	2	1.6	4	8	5	3	5	13	2	1.6	5	9
34	OP	I	2	1.6	3	7	2	1.6	4	8	5	2.4	7	14	1	1.6	5	8
35	QR	G	2	1.6	3	7	2	1.6	3	7	4	2.4	0	6		1.6	3	5
36	ST	H	2	1.6	0	4	3	1.6	2	7	0	2.4	0	2		1.6	3	5
37	UV	E	2	1.6	2	6	2	1.2	3	6	4	1.8	0	6		1.2	3	4
38	WX	D	2	1.6	4	8	3	1.6	3	8	5	1.8	6	13	1	1.2	5	7
39	XZ	H	3	1.6	3	8	3	1.6	4	9	5	2.4	7	14		1.6	5	7
40	AX	H	2	1.6	2	6	3	1.6	2	7	5	2.4	5	12		1.6	3	5
	合 計		75	64	110	265	91	57.6	121	276	163	89.4	206	454	6	54.4	149	211
	平 均		1.9	1.6	2.8	6.6	2.3	1.44	3.0	6.9	4.1	2.2	5.2	11.4	1.2	1.4	3.8	5.3

資料2 成績総括事例

年間成績の算出

- ① ユニットのかたまりを決め、それぞれ観点別評価表（別紙）を作成し記録する。
- ② 学期内に評価した、各ユニットごとの観点別評価表（表計算ソフト使用）を集計する。

100～80		5
79～70		4
69～50		3
49～30		2
29～0		1

100～70		A
69～50		B
49～0		C

(年間成績表)													
号	氏名	PAPER		観点別評価				計	合計	評価		ペーパー より5点 以上低い	ペーパー より2点 以上高い
		素点	60%	関心 意欲 態度	思考 判断	技能 表現	知識 理解						
1	AA	68	40.8	5.4	3.8	5.4	4	18.6	59	3	B	*	
2	BB	75	45	7.5	5.9	7.9	5.8	27.1	72	4	A		
3	CC	82	49.2	6.1	4.8	6.8	5.6	23.3	73	4	A	*	
4	DD	57	34.2	4.1	3.6	5.8	3.8	17.3	52	3	B	*	
5	EE	75	45	5.3	4.9	6.3	5.7	22.2	67	3	B	*	
6	FF	82	49.2	7.2	6.5	7.3	7.5	28.5	78	4	A		
7	GG	83	49.8	6.3	5.2	6.7	6.2	24.4	74	4	A	*	
8	HH	70	42	6.6	5.2	6.6	5.1	23.5	66	3	B		
9	II	70	42	3.6	3	5.1	3.2	14.9	57	3	B	*	
10	JJ	80	48	7.2	5.1	7.1	5.1	24.5	79	4	A	*	
11	KK	65	39	5.6	4.4	5.6	5.8	21.4	60	3	B	*	
12	LL	62	37.2	6.2	3.6	6.1	4.1	20	57	3	B	*	
13	MM	78	46.8	6.8	6.8	7.7	6.8	28.1	75	4	A		
14	NN	83	49.8	8.9	8.1	8.8	8.2	34	84	5	A		
15	OO	70	42	7.8	6.4	8.6	6.7	29.5	72	4	A		○
16	PP	82	49.2	6.8	6.1	5.9	5.9	24.7	74	4	A	*	
17	QQ	77	46.2	7.2	6.7	8.3	7.3	29.5	76	4	A		
18	RR	63	37.8	6.9	5.9	8.1	6.6	27.5	65	3	B		○
19	SS	92	55.2	8.9	8.1	8.5	8.2	33.7	89	5	A		
20	TT	75	45	7.3	6.8	7.1	7.5	28.7	74	4	A		
21	UU	90	54	8.7	6.5	7.4	7.6	30.2	84	5	A	*	
22	VV	70	42	7.9	7	8.8	6.9	30.6	73	4	A		○
23	WW	82	49.2	7.9	5.9	6	6.9	26.7	76	4	A	*	
24	XX	72	43.2	6.4	6.1	6.7	5.9	25.1	68	3	B		
25	YY	65	39	5.8	5.2	4	5.6	20.6	60	3	B	*	
26	ZZ	73	43.8	7.1	5.4	7.6	6.1	26.2	70	4	A		
27	AB	83	49.8	6.8	5.8	7.1	6.5	26.2	76	4	A	*	
28	CD	72	43.2	7.3	5.3	7.2	6.5	26.3	70	4	A		
29	EF	50	30	5.9	3.8	3.2	5.1	18	48	2	C		
30	GH	83	49.8	8.1	6.5	8.6	7.8	31	81	5	A		
31	IJ	75	45	6.3	5	6.9	6.6	24.8	70	4	A	*	
32	KL	63	37.8	5.7	4.4	4.2	4.3	18.6	56	3	B	*	
33	MN	80	48	6.3	5.6	7.1	6.8	25.8	74	4	A	*	
34	OP	70	42	7.1	5.6	7.9	7.1	27.7	70	4	A		
35	QR	57	34.2	6.9	5.8	6.1	6.2	25	59	3	B		○
36	ST	70	42	5.9	3.8	3.2	5.1	18	60	3	B	*	
37	UV	67	40.2	5	3.7	4.4	5.1	18.2	58	3	B	*	
38	WX	88	52.8	6.3	5.9	7.6	6.9	26.1	79	4	A	*	
39	XZ	73	43.8	7.8	6.3	6.9	6.7	27.7	72	4	A		
40	AX	62	37.2	6.4	4	6.2	5.1	21.7	59	3	B		
	合 計	2,934	1,760	267	218	267	244	996	2,760				
	平 均	73.4	44	6.7	5.4	6.7	6.1	24.9	69.0				